

## 令和元年度(平成31年度)地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	伝統猟法「巻狩り」技術の伝承事業
事業主体 (連絡先)	大桑村猟友会 (0264-55-3080)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業 イ農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ハード
総事業費	1,220,400円(うち支援金:813,000円)

### 事業内容

本会員の9割が鳥獣被害対策実施隊員として村から任命され有害鳥獣駆除やパトロールといった業務を行うなど、社会的な役割を担っている。本会では、狩猟と有害鳥獣駆除の業務で「巻狩り」といった伝統猟法を用いて獣類の捕獲を行っている。現在、この猟法を行っている地域は少なく、県のハンター講座では受講者が村の巻狩りに参加しその方法を学んでいる。

しかし、会員の高齢化や減少が深刻な問題となっている。本事業でハイテク機器を導入した新しい狩猟スタイルを先駆的に行い、高齢者狩猟者の負担減と若者の狩猟への関心を高め効率的でより安全な猟法が期待される。今後も伝統猟法の狩猟を継続し会員を維持していくとともに鳥獣被害の軽減に繋げることを目的に事業を実施した。

- ・整備:(6月~7月)GPS搭載端末ドッグナビ6機
- ・実施:(1月)

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①会員の機器に関する関心は高く、村広報誌の掲載により会員の増も期待できる。
- ②安全性は以前に比べ格段に上がり、効率的な猟法ができた。
- ③効率的な猟法により、農林産物被害の減が期待できる。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

猟法の安全性を高め、会員数を維持していく。有害鳥獣駆除を実施する適格者として地域に根差した活動や組織作りを推進していく。



【ドッグナビを装着した様子】

### 【目標・ねらい】

- ①伝統猟法の継承と会員の確保
- ②猟法の安全性の向上
- ③有害鳥獣による農林産物被害の減

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

現在、会員の猟法の安全性が上がり効率的な猟が実施された。また農林産物被害の減も期待できる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある